



驚談
 傳奇
 卷之九

~13
 4391
 3



13
4391
3



驚談傳奇桃花流水卷之三

江戸 山東京山 編次

第七回 乞錢

抑近江國石山寺天平勝宝六年の草創よりして本尊二臂
 如意輪觀音ハ長僅ハ六寸。聖徳太子の御作あり。聖武乃
 朝まゝつて僧正良辨大六の如意輪とつゞて太子の御作と
 腹内にあさめあり。今の本尊とんあり。凡一千有餘年の霊場
 うれは都鄙遠近の衆詣日毎に群とあり。絡々繹々とあり。大
 志づくもさあることあり。頃しも弥勒生のまへに山内の花を
 散りて開くわけて。こゝろこゝろに熱帯しくさぬぐの商人へ更
 つろくの物乞のわがうらゝ色よく笑へ藤架の下に筵とす。



筑紫琴とくまひりして。のを喰ひのり。そのわりさぬりにとるれば。京様に結ばして。花の元結とかけ。蘆花のんぐとつて。花田の絹は紅葉の流るる色と色入は漆つぎ。振袖は鹿子綸子の紫の色も。さうらうの帯と結び。えん。泣くし。うらと見ゆ。目も。結白へう。い。ま。これ。さうら山。中。左。湯。門。が。娘。の。小。君。さう。御の。う。さ。る。つ。ま。昔。と。ら。ひ。貴。や。う。る。ま。が。さ。と。見。て。この。藤。架。の。四。邊。所。せ。れ。も。それ。つ。ご。ひ。の。り。ま。り。押。疑。立。て。ま。も。あり。傍。の。懸。河。に。腰。う。けて。園。さ。る。もの。り。て。人。ご。銭。と。投。あ。ま。る。琴。と。ひ。さ。う。ぐ。頭。と。と。れ。て。礼。と。う。そ。さ。ぬ。り。に。も。わ。り。ま。け。る。れ。ば。情。も。富。家。の。女。房。さ。ら。の。露。銀。の。涙。と。か。う。一。慈。悲。も。有。徳。の。公。卿。ら。の。數。系。銭。の。耳。と。こ。み。け。れ。ば。小。君。へ。日。毎。に。あ。や。の。銭。と。え。て。定。の。食。雜。用。と。飲。ど。

儲の。冊。に。の。口。よ。の。り。の。の。と。り。あ。て。さ。う。ら。猶。あ。ま。う。さ。る。銭。の。鬼。さ。う。ふ。へ。え。ば。如。法。貪。慾。の。鬼。芝。さ。れ。ば。い。つ。と。あ。う。り。つ。う。て。掌。と。あ。て。ら。を。変。も。さ。く。あ。い。さ。う。の。あ。う。く。に。心。を。ま。さ。う。い。の。色。日。毎。は。顔。と。し。て。の。を。さ。る。い。其。身。を。う。う。親。ま。ま。の。耻。辱。さ。れ。ば。身。と。ま。う。を。さ。う。に。か。は。し。く。い。さ。く。と。一。銭。の。貯。も。あ。く。立。る。べ。ま。陰。で。ま。ら。れ。ば。一。や。母。と。つ。ま。て。立。の。く。と。も。を。食。さ。る。う。外。に。思。案。あ。く。わ。く。と。わ。ぶ。由。良。え。進。が。う。づ。子。來。る。こ。う。わ。の。う。ん。と。え。ん。と。さ。う。ら。便。あ。く。月。ご。と。を。さ。う。さ。う。小。君。が。心。の。う。ち。の。う。づ。う。り。わ。び。の。り。あ。の。の。い。さ。る。べ。い。山。中。左。湯。門。が。親。の。り。の。の。の。の。柏。木。小。君。ら。の。非。人。と。ま。を。に。あ。う。さ。う。し。あ。ん。ど。知。る。の。の。も。わ。り。つ。ま。ご。も。眾。と。あ。う。せ。い。の。の。妻。子。う。り。と。と。さ。く。ひ。う。を。ら。る。人。も。さ。う。当。國。の。俳。徊。の。さ。う。し。れ。



山やま中なか左ひだり門かどの
 娘むすめ小こ君きみ父ちちの
 けしき家いへを
 失うしなハ
 令さし落おス
 路みち上かみノ
 琴ことト
 母ははを
 や
 入いル

歌
 卷
 之
 三

へ母さぬくと呼けけるは栢木のそれときて首成あげぬの方と搦つ
 眇つちつるれば小君の猶もとまどやけへ母さぬとて小君とやそのといひられ
 栢木いうとげよ才成起しぬの下は膝行よりて壁成かよのびあがりへ唯々
 小君くるせ夜深ま来りしごとく顔むせも詞つきの常の人のごとくたしる
 ばすもくうとくへ母さぬきとて最前あつぐの支も憂目よあひしが渠が
 一言御命もおつたかきぬ今夜母さぬとて此前成逃本人とあひよ板
 戸と氷は終らぬといふも是をなし今夜はひるくをさすも明日の夜は
 かるどあひと果さべしと涙あがりまきをせけれぬ亂心の栢木も才成さうは
 とあひてや瘦たる顔は涙とあがりてうち點頭多しは小君はやくとあひて
 二、片立、時どうつととも母さぬの介抱もあつても困入てえつせられぬとあひ
 たちしるの妨もあつるべしと母さぬの介抱もあつても困入てえつせられぬとあひ

錠とさし。目どろりある前の雪成撥かて盗し籬と埋ちき雪の足跡とあけ
 後、歩行て背戸の口よ立ちあがり雪は咽と潤し一息吻とつくどりーも。
 とたんとひびく雪折竹あつど胸と冷しり

第八回 神護

かくて次の朝の雪も晴せば小君去り気なりとあつて例のごとく立ちせられば。
 鬼芝葱と招てりや。我昨日の小女郎が欲迷言例しは渠は當国松江
 の判官秋季殿の御内の者の娘なるなり。此月どろ崇のまうし我く
 が幸なり。此のち長くさめあつたの破ととなりべきもえりかじし。気ちあひあ
 縊り殺し。小兒女めの遠国へ賣渡んとあつる。汝すうしとてさうし
 らんが意らろえて。預て人買のめとくをせ行るが時成さうしとて立飯り。鬼芝
 と片方は招き我も人買のめとくをせ行るが時成さうしとて立飯り。鬼芝



悪婦
 鬼の
 指の
 形の
 子ら
 命と
 こと



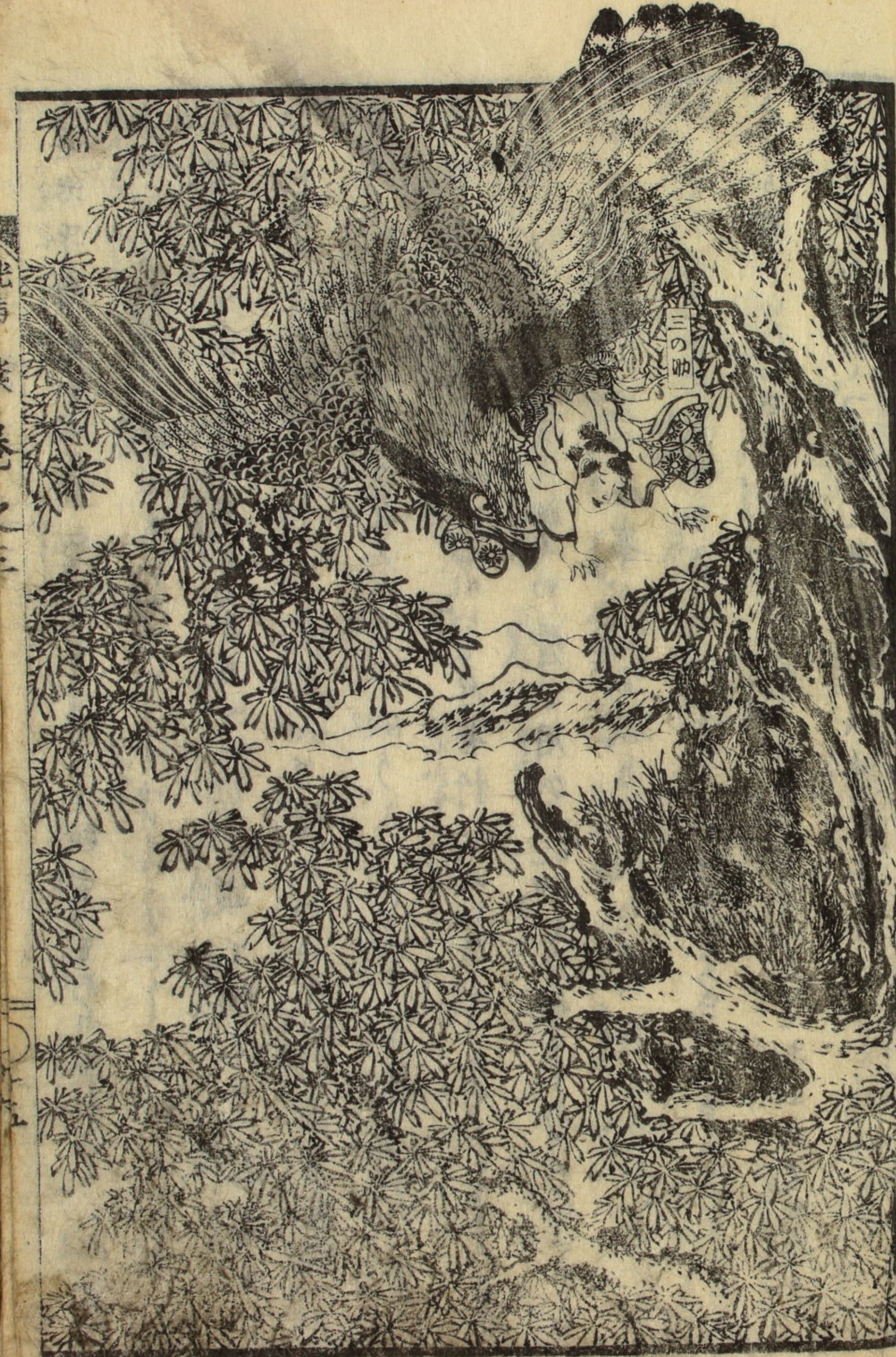
悪婦
 鬼の
 指の
 形の
 子ら
 命と
 こと

趣向おもむきでわらふとて幽冥ゆうめいにいてやらうい今いまが最期さいごや堪念かんねんせよと栢木かしきと踏ふ
 壘いま猪追棒ぶらと振擧あて眉間まゆまと目當めあの拜をらわらんと入いる折をりぬれ
 一足ひとあしの猪垣ぶらとこえて飛ときう向所むかところとまじひもせど空屋からやの壁かを突つ
 破やぶり鬼芝おにしばが棒ぼうと振あつて怒いかりて飛とりて水みづとびせて
 ぶらりと打うつ猪ぶらへまをく怒いかりて牙きばとまじ毛けと逆立さか躍たり擧あると
 見えとじし鬼芝おにしばと牙きばにかけ一丈いちじやう余あり駢ひらむげに血煙ちぢいり雨あめの如ごとく
 降ふりて湧わる手負猪てあひぶら獸けのよめ殺ころさし一ひとの悪あくの報むかひとちこころ猪ぶらへ
 猶なほもたううらひ逃にげ葱黒塚ねぎくろづかとも追おまし懸殺けんころ一ひと面屋おもやのうらふ
 駢ひら入いててか一ひとの奮迅ふんじんまらうなれば女非人にょひにんとも周章しゆぢやう迷まひ蛛くも乃すなはち散ちら
 如ごとく足あしと空からに逃にげぬ猪ぶらの面屋おもやと走はり何なに方かたとまじ駢ひらううらう
 此猪小君こぶらこきみが目めの背せのうらふ摩利支天まろしてんの尊像そんざう臆おそれにんえさせぬ

なればうらふ此地このち獄坂ごくさかの古社ふるやしろに立たせぬ摩利支天まろしてん尊そん天てんり急難きゅうなんと
 とくをぬり疑うたしと奇異きいのあひとみ随喜ずいきの泣なき酒さけで御社みやしろの
 方かたにむらひて遙拜てうはいせり鬼芝葱黒塚おにしばねぎくろづか等らの或あるは腹はらのひの鱈尾たらびと突つ
 破やぶらま朱しゆと深ふかりて死果しんくわしうらうにありさみありあふは渠みち等らとじら
 柳社やなぎやしろのなごうに任まてさみぐの悪行あくぎやうとみ神前かみまへ又また懸けんる銚しやう口くちとわれら
 悪あく寛かんの相音あいのぶは用来もちきたりりうんと无慙むぜんの所行ところぎやうされば今いま斯かく神罰かみばつと下くだ
 めひも猶なほ遅おそいとつて小君こきみへらうて夢ゆめのさあさるこころ
 斯か冷落せうらくいあつとぞ神かみの冥助めいすけの危あやき今いまとつとらうらう未武運みぶくうん
 つまざるとあをえらうと心涼こころすずくうらう栢木かしきとさそのおらう此雨このあめ又また落行おちぎやう
 最前猪さいぜんぶらの破やぶりう垣かきとこころは此所このところ又一またと一の溪川たにがわわりて僅わずかなる
 川幅がわのひろさなれども昨日きのうの雪解ゆきとけみ水みづとまじりて流ながるうらうと

り。猿の声と。斧と杖に頭擧。耳と澄してよく。東の方より。正しく小児のこゑあり。柴桑六人あり。深山へ小児とて登来る人もあり。えい一定山賊さんとが子とて。白引来りて此山より。おじ不疑ひは。此奴真ニツに。一て。まんを。い。其。実。否。とも。見。さ。げ。る。小先怒とほ。負。る。新。と。片。方。に。打。捨。斧。に。う。け。る。革。袋。の。刀。室。と。は。び。て。打。ら。げ。根。毎。と。推。ま。り。岩。を。つ。つ。の。こ。ま。と。案。内。は。尋。つ。ま。て。こ。の。か。こ。見。巡。を。と。更。に。人。影。も。え。え。ど。小。児。乃。声。も。止。ま。れ。た。こ。の。い。ん。く。と。佇。立。し。に。頭。乃。上。と。目。や。つ。と。泣。い。だ。や。一。ま。と。は。て。押。さ。見。ま。を。大。木。の。楠。の。梢。は。驚。の。巢。あり。て。巢。の。う。へ。よ。さ。う。の。ど。ろ。一。枝。に。親。驚。と。お。び。く。五。才。ころの男子とわい。狐。と。今。や。と。喰。ひ。裂。ん。と。泉。の。内。の。懸。は。見。せ。く。樂。し。む。体。ま。り。柴。桑。六。山。賊。と。お。れ。乃。外。これ。と。見。て。打。お。ど。ら。ま。し。一。が。如。法。

慈悲ある男。えい。へ。す。ふ。ら。で。跟。踏。む。木。よ。の。か。の。八。年。ら。の。業。つ。ま。つ。心。斧。と。腰。よ。さ。う。と。猿。の。如。く。に。梢。と。つ。み。驚。の。し。ろ。く。ま。ら。う。ら。う。が。驚。の。懸。と。愛。さ。る。に。心。と。さ。う。ま。て。柴。桑。六。が。来。う。と。あ。う。さ。う。な。れ。ば。志。ま。ほ。う。と。た。び。猶。も。斧。と。屈。め。て。覗。ひ。し。う。研。を。る。一。し。る。大。斧。と。脇。長。と。さ。う。の。つ。て。か。ま。ま。せ。て。さ。う。し。と。打。し。に。驚。の。背。中。と。ニ。ツ。に。か。し。余。る。か。に。枝。ま。ぞ。も。半。す。よ。ま。つ。つ。と。斬。落。せ。り。柴。桑。六。へ。心。周。章。小。児。の。命。お。つ。つ。ま。し。と。忙。し。く。木。を。下。り。て。駈。り。り。見。ま。る。就。鳥。の。片。足。は。枝。と。摺。片。足。に。小。児。と。狐。朱。は。漆。り。て。倒。れ。り。小。児。の。襟。首。と。狐。と。壘。ま。絶。入。て。あり。な。れ。ば。驚。の。瓜。と。折。擺。ま。る。小。児。を。懐。き。助。り。り。の。や。ま。と。傍。は。生。茂。り。たる。蓬。生。と。株。り。採。斂。する。青。汁。と。口。ふ。漱。ま。れ。れ。ば。や。を。息。と。吹。く。一。冊。さ。る。の。み。と。一。声。も。最。期。乃。ま。つ。ん。と。そ。ん。て。齒。と。齧。り。て。は。し。む。体。い。と。ま。ら。ま。の。わ。り。と。ぬ。ら。れ。ば。鬼。も。組。ま。



川崎



川崎

川崎



つらゆか

三の六



樵夫

柴桑六三之助と

なとゆと近江あつら

途中を難ふ

あみ

三の六

固

文章堂頼有團圓忠孝

神仙理馬抄 安内赫野一喜

萬本直教張存通門傳

固

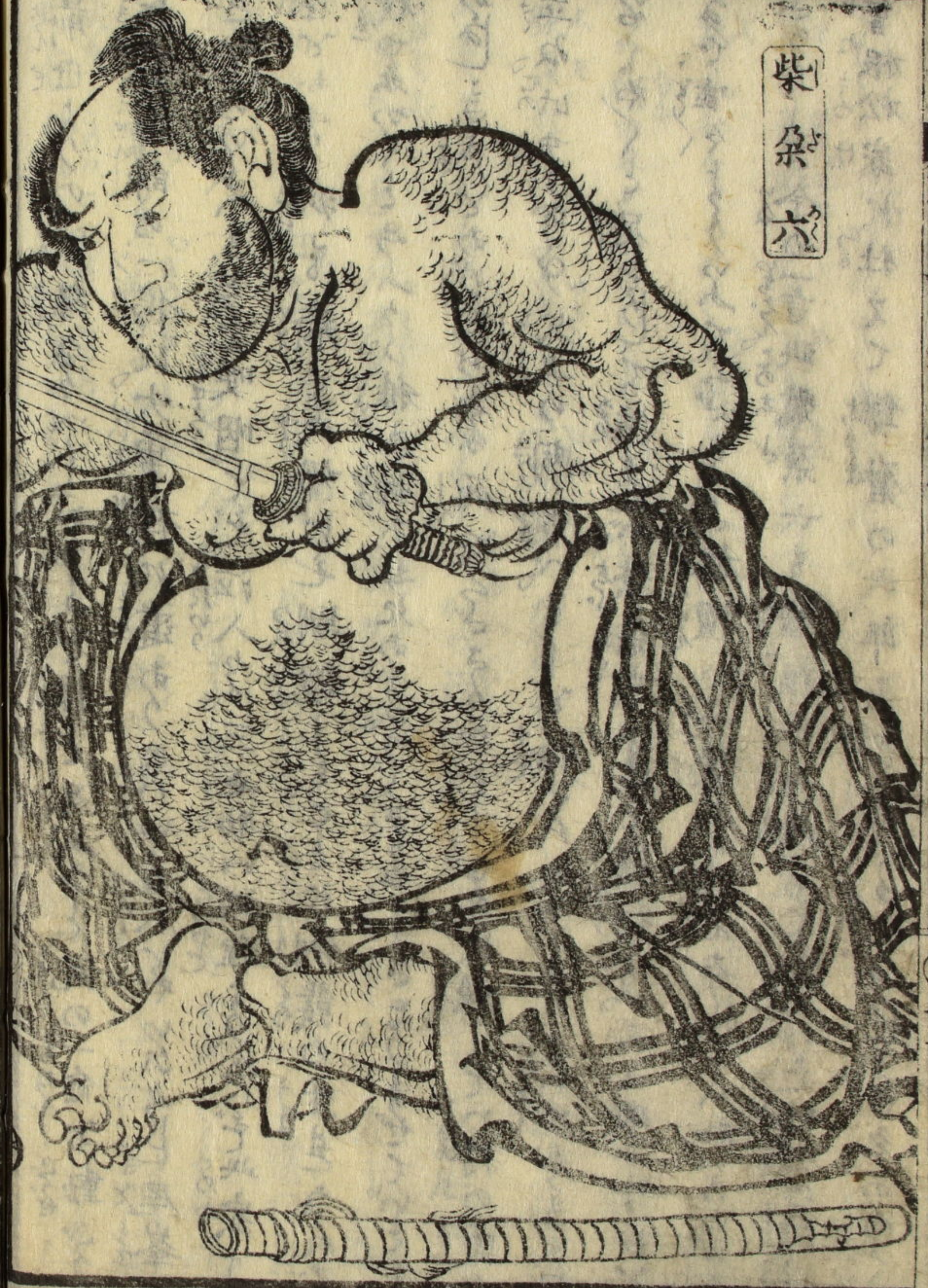
丸に抱へ斧とまりて片手打先よそと
 兩人と丸右へ繼よと又く
 くるが。四ツにありて倒さる。残る奴原れと見て。四五人ひくく力と合せ
 刀尖さるごとく立ちむく。柴朶六つこれと物ともせど。斧の柄と口は唾え。
 傍の石地處と目より高くさうのゆて一声うりて打つけに。仏ふうられて
 三人まを地獄落の嵐のごく。目玉飛出て往生せり。るく者ののふとを
 舌と吐て肝と消し。とらるハトと逃中と又追打の梨子割。二ツは
 目れて倒さる。星合棍之助ハ八幡の社頭よのがり。此体と望と見て。
 柴朶六つ勇ふかされて。二の手にひる心もろ。頭と擡て居よりるが心
 さとれりあるまふ。前の日此神前へ納めたる弓矢の額よりるが。重藤は
 鎗箭とろく。矢頭と定まど六つ抱き居る。三之助と射ととさんと満月
 のごとくに引絞りる音高くとららけら。三之助は。運やはよかりるん。

覗ひえづきてきど六つ。服腹へぞ射付る。再二の矢とつひける。奉納の
 られハ弦上てせんまき。猶も核子と望と見え。農業よやる百姓原
 鋤鐵つぎてらる。かーこころを集りて。山賊よ剛盜よ。箭のつぐくよる
 射あけしぞと口ぐ。小うづ。王なれハ棍之助便あし。と似せ商人の牛平と
 従へ何方ととく。逃をせ。多百姓むく。柴朶六つちうにあら。此人と
 見れば。大力のまこえとく。此のうりまでも顔ととく。まこえとら。ちうら
 かとえま。さるぐ。れりこころ。りる急呀の痛手。らね。並くののの。あ。ん。あ。ん
 即座にも死をまに。大カ無双の柴朶六つ。れ。射付られ。る。白羽の矢の
 朱に。り。し。壓打て地上へ。あ。げ。ら。ら。りる。飛道具。れ。あ。ら。ん。ハ。幾。十。人
 来。り。たり。と。と。間。く。痛。手。ハ。負。ま。し。死。に。練。念。や。口。か。ー。や。と。拳。を。あ。ら。ん
 顔。と。は。怒。る。眼。は。无。念。の。候。勇。一。く。も。ま。こ。あ。ら。ん。り。り。て。百。姓。ら。ん

うしろの深切にりりうらうら。ちと六と山奥にのせ。三人して打さげ。三之助と
 背に負時へるや日暮れれば松明とあり照して八彦村にりりうら。その
 家はおろつけ立既りぬ尾峯の夫が体とえて夢うつさむりたえを
 何ゆゑぞあきらむるやと手負の膝にさうつさくあてのけてぞ歎ける
 柴朶六は息とつふ不審。くもも我が痛手とあひさるへくすく
 の夏うらうりのごんごんさるる所かの商人道まで我と殺し。三之助金と
 山中氏へつと申た其者一人まで褒美の金ありつらんさくさるるべし。同類
 のりいあさる打さる。商人にさめりごうらりしつることを遺恨を
 僅鏑箭乃一とぞぐごんごん。今爪にさるるさくさく六あひあうさくさくも服腹
 とぞ深き刺しと。疵口は夜風とありて五臓六腑も。惱乱せんべとぞも助へ
 謂は此和子殿が命とぞもけ。此和子殿のさあふ余とぞもるることをこころしく

前世よりの因縁ありべし。あさるる恨とさるる死の一念と動ざるの
 狂雲禪師の一偈に大勇禪に道ありさへ。かゝる人さるる尾峯の
 とくくのうらもせむと。哽咽とぞ泣入る。三之助は此程より。さくぞ此家よ
 日とあさる疵も。瘡て夫婦は。馴親し。ことに例敷の生さるれば
 我ゆゑかくとさるる。稚き胸におたあさる。つさくさく。ささるるまぜていと
 かほしき声とあひおぢさぬ死でささるるか。さくさく殺して侍の道が
 立ぬは。かうか。父上の岡召べし。と捨ておろし。あまの死さくさくぬ
 ちとやくと足むりして泣かれ。柴朶六は。さくさく膝行より。三之助が。かゝる
 らで唯々うらうら。つてさくさく。梅檀は。二葉より。かんを。しと。和どの。夏
 この。今の一。言。此。柴朶六も。種根の。山。樵。あても。ゆら。ど。播。刈。の。圃。司
 曾根松家に仕えて。銚磨の六郎と召さるる。士。さるる。じ。が。ゆ。ゑ。あ。ら。う。く

柴六



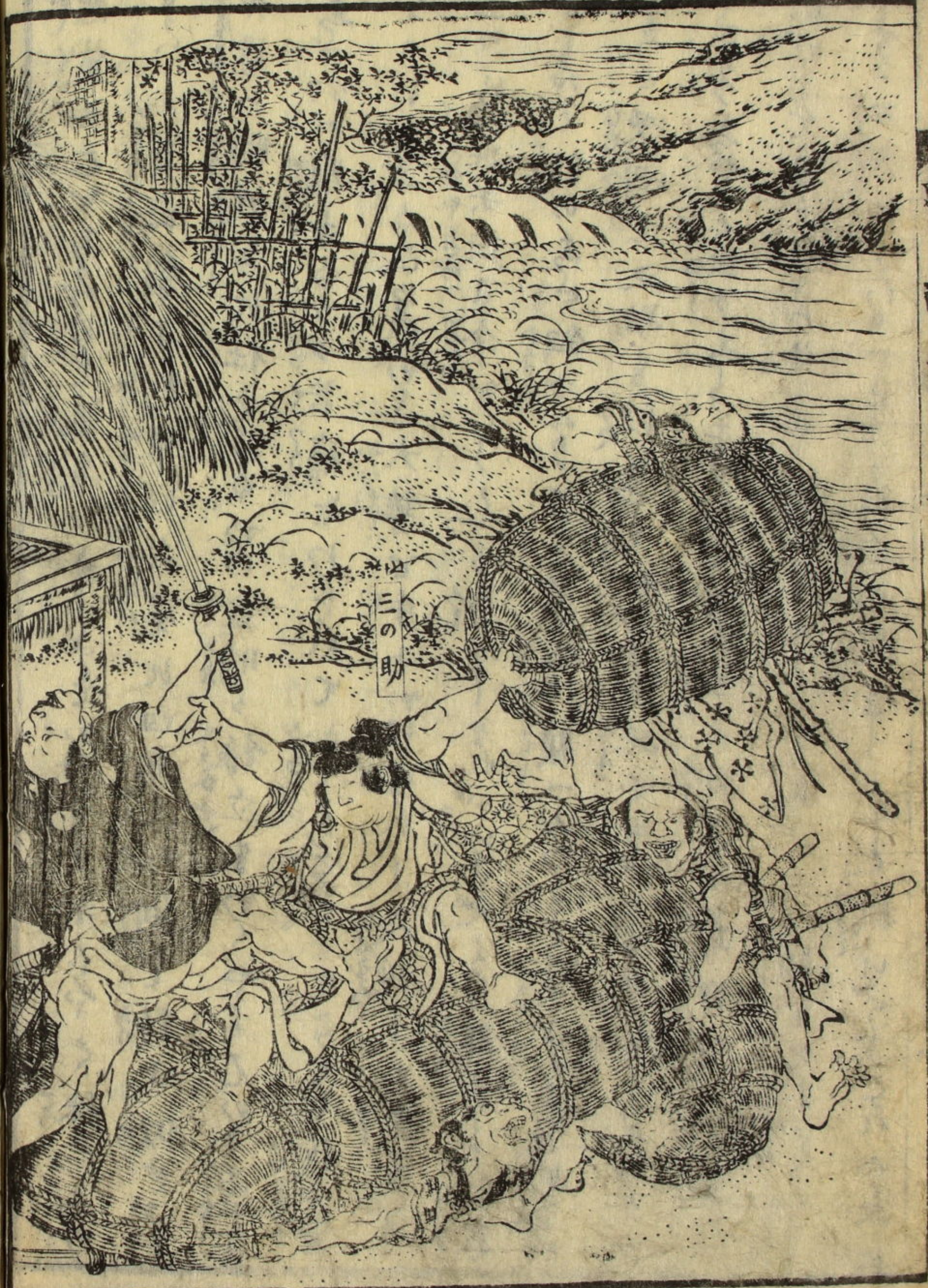
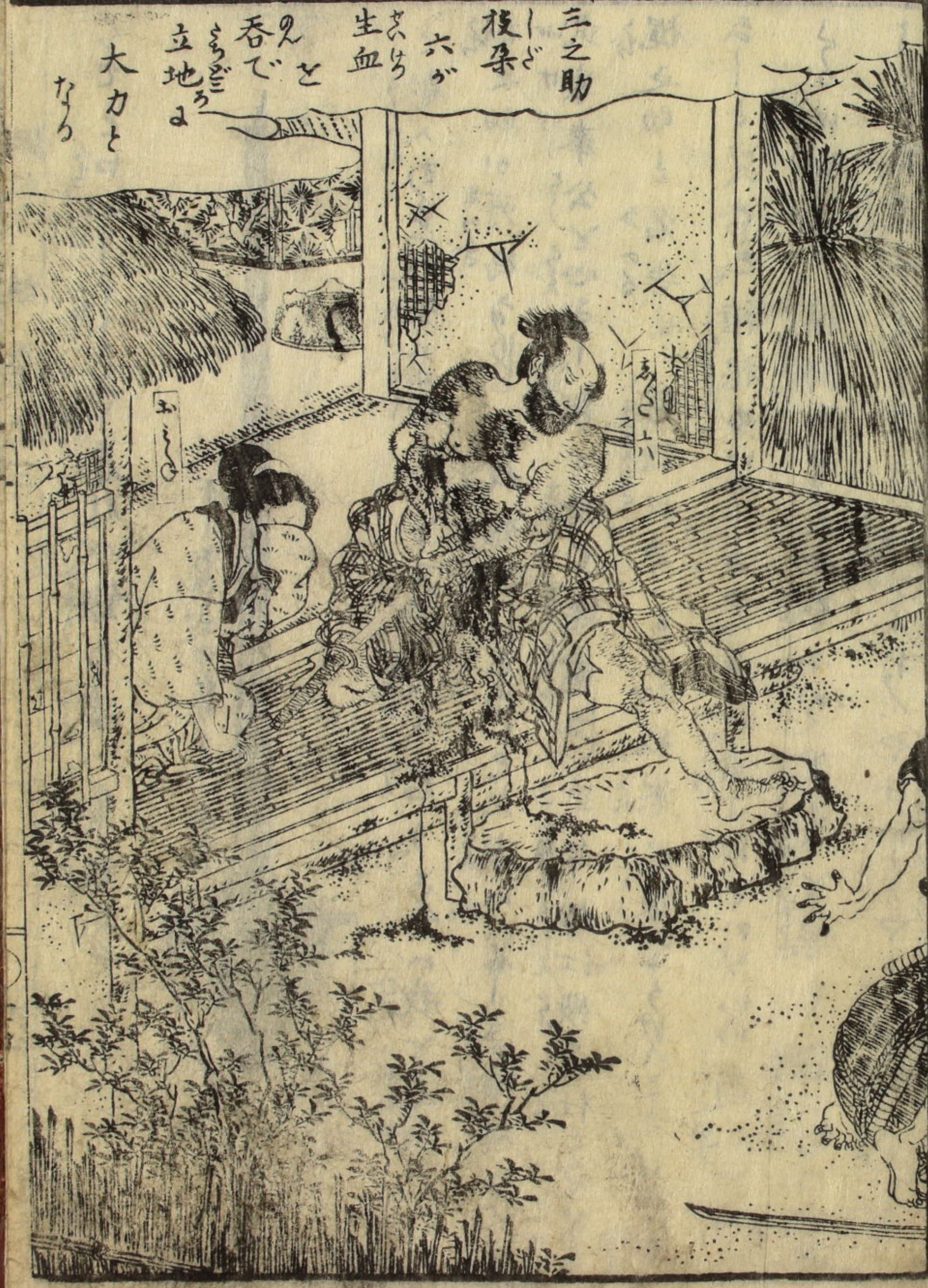
四考

無情骨肉成
 吳越有義天
 涯作至親三
 義村中傳美
 譽河西千載
 想奇人



三之助

三之助
枝朶
六が
生血
吞で
立地
大カ
なり

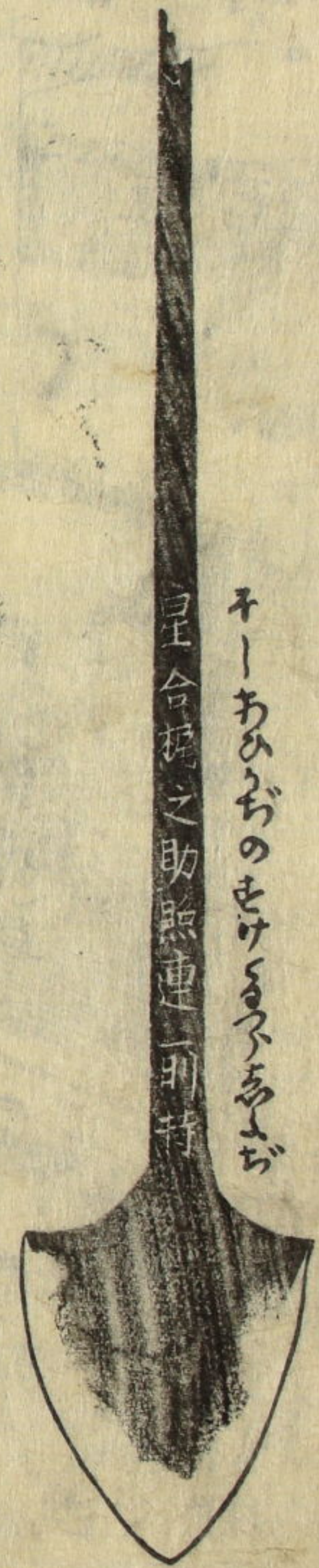


三之助

と口おしく、よしく見れば、鑢の莖一象眼おそ

キーあひぶのまけるるあふが

星合橋之助照連一判持



と彫入のまば、紫朶おこれと見て、大に怒り、さて、我と遠矢は、
梶之助が所為なりしや。我播列にありしと死。渠へしや、
武家奉公と心ざり。親と捨て、逐電は、近年松江殿、
梶之助と名告はし。巷説に、ききも、いぬ、渠に恨と、
まーと、いごご。種根の、しや、きか、る、金、目、の、り、の、
るに、疑、か、一、漢師の、せ、れ、が、拳、お、り、
よしく、武運、よ、つ、ま、を、し、ら、
喉、ざ、ん、わ、ん、や、口、お、し、
と、鑢、と、筆、子、

うらつけ、怒、ば、一、し、か、激、る、鮮、血、の、
妻、い、や、う、く、涙、と、ぬ、ぐ、い、女、子、で、こ、
安、穩、で、お、く、べ、き、や、頼、て、手、向、ん、敵、の、
人、の、最、期、の、一、念、め、て、苗、宇、に、迷、お、
あ、ま、南、无、お、ま、ご、仏、く、と、夫、が、
消、え、風、情、あ、り、三、之、助、の、
ろ、の、強、よ、ら、と、三、之、助、堪、恐、い、
消、ゆ、目、と、ひ、ら、き、菟、示、せ、
此、世、の、り、れ、合、破、と、倒、
と、倒、と、あ、ら、入、り

鷲談傳奇桃花流水卷之三終

